

凡例

2024/10/26 (Ver.4)

〔対象〕

- (1)本データベースを ShaDa (シャダ) と称する。写経所文書データベースの略称である。
- (2)本データベースは、正倉院文書中の写経所文書を主たる対象として、個別写経事業ごとに整理したものである。一切経・私願経も対象としている。その写経事業の本経、経巻の目録類についても入力した。また絵仏・絵軸についても適宜入力している。
- (3)『大日本古文書(編年)』には収載されているが、写経所文書ではないもの(たとえば東南院文書)は対象としていない。また写経所文書の背面にある公文類等(戸籍・計帳・正税帳など)も同様である。
- (4)写経所文書でも、記載内容が写経事業と直接かかわらないものも対象としていない。
- (5)複数の経典がひとまとまりで写されている場合を仮に「セット経」と称して一括表記した。
- (6)大日古第1～6巻所収の史料のうち第7巻以降に再収録されているものは、すべて再収録のものについて入力し、元の収録分については検討の対象としていない。第7巻以降の史料が再収録されている場合も同様である。
- (7)大日古に未収の写経所文書のうち、写経事業にかかわるものは対象とした。

〔入力の方針〕

- (1)経典名・人名その他、原則として史料の用字・表現に従って入力した。たとえば「法華経」と「法花経」、「麻呂」と「万呂」などである。その具体例を「異表記の例」に示したので、これを参照していくつかの表記で検索されたい。
- (2)写真により大日古の誤読等であることが判明した場合、正しい文字・数値を入力した。もとの文字・数字は示さない。
- (3)数値は、大字か否かにかかわらず、原則として算用数字によって入力した。
- (4)原則として常用漢字を用いる。通用字体を用いることもある。
 - ・「ササ」は「菩薩」と入力する。「咒」は「呪」と入力する。
 - ・□は欠損、■は読みが不明の場合を示す。推定できる場合は(カ)で示した。[]は字数不明。
 - ・()は細字を示す。双行の場合は「／」で改行の位置を示した。
 - ・『』は朱字を示す
 - ・【 】は抹消を示す
- (5)《1》《2》など(二重の山カッコ)は、経巻の借用と返却などの時間的経過がある場合や、継文の個別文書(手実帳の手実など)など、場合分けすることが適当な場合に適宜使用した。

〔各欄の説明〕

「写経事業 ID」個別の写経事業ごとに付けた ID である。以下によって番号をふった。

・No.1～212 は藺田目録（藺田香融氏が後掲の論文において提示した間写経の一覧表）の番号を採用したもの（ただしNo.39、No.59、No.143、No.209 は欠番）。

・藺田目録では別の写経事業とされていても同一写経事業である場合は「=」でつないで示した。
No.52=56、No.154=163、No.156=173

・No.1000 番台は藺田目録に見えないもの（数字はランダムに与えている）。したがってこれらはShaDaにおいてはじめて提示される写経事業である。

・No.5000 番台は、No.1～212 やNo.1000 番台写経に合致する可能性があるが確証が得られないもの。たとえばNo.101 # 5049 は、No.101 に関する史料である可能性が高いが、その確証が得られない場合を示す（# はそれを示す記号、5000 番台の数値はランダム）。

・No.8000 番台は一切経および審詳師経・水主内親王経などの大規模なコレクションである。その内訳は以下の通り（No.8003、No.8018 は欠番）。

No.8001 〔五月一日経〕 宮一切経、坤宮一切経、坤宮官一切経とある場合もこの表記で統一した。

No.8002 〔北夫人一切経・元興寺北宅一切経〕

No.8004 〔大官一切経・先写一切経〕

No.8005 〔後写一切経〕

No.8006 〔中断一切経〕

No.8007 〔忌日御齋会一切経〕

No.8008 〔山階寺西堂経〕

No.8009 〔兵部卿一切経〕

No.8010 〔図書寮一切経〕

No.8011 〔図書寮経〕

No.8012 〔先一部一切経〕

No.8013 〔始二部一切経〕

No.8014 〔更一部一切経〕

No.8015 〔今更一部一切経〕

No.8016 〔甲部一切経〕

No.8017 〔十部一切経〕

No.8019 〔水主内親王経〕

No.8020 〔審詳師経〕

No.8021 〔藤原仲麻呂家一切経〕

No.8022 〔景雲一切経〕

・No.4000・9000 番台は貸出・借用・返却等、経巻の移動に関する史料で、必ずしも写経とかかわらないもの（数値はランダム）。ただし移動された経巻の所属が判明している場合はその写経事業番号を記した。たとえばNo.8001 # 9016 は五月一日経がその後移動したことを示す。

「写経事業名」

・古代における当該写経事業の呼称（たとえば三部花嚴、先一部、水主内親王経など）、研究史上

の通称(五月一日経など)を記す。

・これらの呼称がない場合は、便宜上経典名をもって写経事業名とした。

「**経典名**」 同一の経典についてさまざまに表記されるが、史料の表記通りに入力した。ただし(経典名省略)とした場合が多い。

「**勅・宣など**」 その写経事業の開始を指示するもののほか、経典・物品の送付などに関わるものも記入した。指示や判断の主体を示す方が適切な場合は()で示した。

「**史料 ID**」 史料を識別するための ID。

・大日古に掲載されている場合は 6 桁の数字で表示した。大日古の巻数(2 桁)、ページ数(3 桁)、そのページにおける何番目の史料か(1 桁)。

・未収文書や未収文書が先頭に来る継文は、上 2 桁を 99 とし、下 4 桁にランダムに数値をふつた。

「**史料名**」 東京大学史料編纂所編『正倉院文書目録』において示されている史料名を記す。これが未刊行の場合は「一」とした。

「**所属**」 続々修第 16 帙までは東京大学史料編纂所編『正倉院文書目録』1～9 によって断簡を配列した。接続の関係を、以下のように省略して示す。

ス	接続ス
カ	接続カ
ル	貼り継ガル
ク	続ク
セ	接続
ツキ	ツキ合せ接続
表裏セ	表裏接続

続々修第 17 帙以後の断簡・接続については、基本的には東京大学史料編纂所正倉院文書 マルチ支援データベース SHOMUS の仮断簡わけに従うことを旨とした。

「**大日古巻ページ**」 「所属」欄に示した断簡ごとの大日古の巻ページを示した。

「**大日古文書名**」 『大日本古文書(編年)』の文書名を記す。接続がある場合の文書名は「+」でつなぐ。目次と本文の史料名が異なる場合は本文の史料名を優先した。

「**該当箇所**」 対象の記載の大日古の頁数を記した。下位の文書名(標出)がある場合は、本欄に記入した。

「**年月日**」 史料に見えるままの年月日を入力した。口座式の帳簿の場合は、最初の日付と最後の日付を入力した。年月日を推測できる場合は()で示した。

「**備考 1**」 写経対象の経巻そのものに関する情報を記した。ない場合は「一」とした。

「**備考 2**」 その他の情報を示した。ない場合は「一」とした。関連する写経事業がある場合はこの欄に記し、リンクを張った。

「**備考共通**」 題籤、端裏書、冒頭記載など、その史料全体に共通する記載、および用度申請解案、布施申請解案などその史料の性格を記した。

「**経師・装幀・校生・題師**」 原則として史料の表記通りに入力した。たとえば「酒主」とのみある場

合（阿刀酒主）のように通例の表記を注記したことがある。

「関係者」 日下の人名、連署者のほか、勘・読の担当者・使者等も記した。

「関連する写経事業」 当該写経事業に何らかの意味で関連する写経事業をあげた。

〔記号・略称〕

「杉本 X 復原案」等……杉本一樹「宝亀年間「奉写大小乗経律論目録」と一次文書の復原」（『日本古代文書の研究』吉川弘文館、2001 年 2 月）

「西復原食口案 A1」等……西洋子「食口案の復原(1)(2)」（『正倉院文書研究』4・5、1996 年 11 月・1997 年 11 月）による分類記号。

「造東大寺司写経所公文案帳」の〔番号〕……山下有美「天平宝字期の解移牒案について」（栄原 永遠男編「正倉院文書の歴史学・国語学的研究—解移牒案を読み解く—」和泉書院、2016 年 6 月）表 I

「御願経奉写等雑文案」の〔番号〕……山下 2016 の表 II、山本幸男「天平宝字四年～五年の一切経書写」（『写経所文書の基礎的研究』吉川弘文館、2002 年 2 月）の表 1

「奉写一切経所解移牒案（忌日御齋会）」の〔番号〕……山下 2016 の表 III

「造石山寺所解移牒府案」の〔番号〕……山下 2016 の表 IV

「奉写二部大般若経解移牒案」の〔番号〕……山下 2016 の表 V

「奉写御執経所奉請文」「奉写御執経所等請経継文」「奉写御執経所奉請文」「造東寺司移案」「奉写一切経司奉請文」「一切経奉請文書継文」の〔番号〕……山本幸男「奉写御執経所・奉写一切経司関係文書の検討—伝来の経緯をめぐって—」（『正倉院文書と造寺司官人』法蔵館、2018 年 6 月）の（1）～（6）

「飯田 2004」 飯田剛彦「玻璃装仮整理文書断片の調査」（『正倉院紀要』26、2004 年 3 月）

「佐々田 2005」 佐々田悠「天平勝宝五・六年の華嚴経書写と外嶋院」（西洋子・石上英一編『正倉院文書論集』青史出版、2005 年 6 月）

「栄原 2003」 栄原永遠男「奉写一切経所の写経事業」（『奈良時代写経史研究』塙書房、2003 年 5 月、初出『追手門学院大学文学部紀要』11、1977 年 12 月）

「西 1996・1997」 西洋子「食口案の復原(1)(2)」（『正倉院文書研究』4・5、1996 年 11 月・1997 年 11 月）

「森 2001」 森明彦「奈良朝末期の奉写一切経群と東大寺実忠」（『正倉院文書研究』7、2001 年 11 月）

「山下 1999」 山下有美『正倉院文書と写経所の研究』（吉川弘文館、1999 年 1 月）

「山本 1988」 山本幸男「天平宝字四年～五年の一切経書写」（『写経所文書の基礎的研究』吉川弘文館、2002 年 2 月、その第 2 節の初出『南都仏教』59・60、1988 年 3 月・12 月）

「渡辺 1998」 渡辺晃宏「廿部六十花厳経書写と大仏開眼会」（皆川完一編『古代中世史料学研究』上巻、吉川弘文館、1998 年 10 月）

〔主な参考文献〕 入力に当たって参照した文献のうち主なものに限る。〔記号・略称〕にあげた

文献は重複して上げない。

飯田剛彦「正倉院事務所所蔵『正倉院御物目録 十二（未収古文書目録）』1～3」（『正倉院紀要』23～25、2001年3月～2003年3月）

鎌田茂雄・河村孝照・中尾良信・福田亮成・吉元信行編『大藏経全解説大事典』（雄山閣出版、1998年8月）

木本好信編『奈良朝典籍所載仏書解説索引』（国書刊行会、1989年1月）

宮内庁正倉院事務所編『正倉院古文書影印集成』1～17（八木書店、1988年5月～2007年8月）

国立歴史民俗博物館編『正倉院文書拾遺』（1992年3月）

「正倉院文書写経機関関係文書編年目録」（『東京大学日本史学研究室紀要』3～、1999年3月～）

関根真隆編『正倉院文書事項索引』（吉川弘文館、2001年3月）

藺田香融「天平年間における間写経一覧」（日本宗教史研究会編『救済とその論理』法蔵館、1974年4月）、のち『日本古代仏教の伝来と受容』塙書房、2016年2月）

竹内理三・山田英雄・平野邦雄編『日本古代人名辞典』全7巻（吉川弘文館、1958年5月～1977年7月）

東京大学史料編纂所編『正倉院文書目録』1～9（東京大学出版会、1987年3月～2023年3月）

直木孝次郎編『正倉院文書索引 官司・官職・地名・寺社編』（平凡社、1981年4月）

奈良皇室博物館正倉院掛編『正倉院古文書目録』（1929年8月、〔復刻〕文献出版、1984年12月）

皆川完一「光明皇后願経五月一日経の書写について」（坂本太郎博士還暦記念会編『日本古代史論集』上、吉川弘文館、1962年9月、のち『正倉院文書と古代中世史料の研究』吉川弘文館、2012年11月）

矢越葉子「続々修と未修古文書目録の対照表」（『日本古代の文書行政』八木書店、2020年12月）